

大阪ろうさい クロニクル

第5号

発行日
2023.7.1

新病院における“循環器センター”

循環器センター長・副院長 西野雅巳



仲夏の候、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

さて、大阪ろうさい病院は新病院となり1年半が経過いたしました。この間、当院「ハートチーム」は心臓カテーテル室を並列で3室に増設、新しく広いハイブリッドオペ室が整備され、また、ICUとHCU、ハイブリッドオペ室及び心臓カテーテル室をすべて3階のワンフロアーに集約し、アクセスの良い素晴らしいハード面の構築と、循環器内科医20名、心臓血管外科・血管外科医5名のマンパワーとソフト面の充実で、24時間体制で最新・最良の循環器医療が提供できるよう努力してまいりました。

おかげさまで、大阪ろうさい病院は南大阪における循環器医療の拠点病院のひとつとなっていますが、このたび、さらなる循環器医療に貢献するため、2023年4月より「循環器センター」を立ち上げました。

本邦は、ご存知のとおり、超高齢化社会を迎え、健康寿命の延伸等を図るため2019年脳卒中・循環器病対策基本法が成立され、「がん」と共に循環器疾患の治療・予防にも国としても力を入れるという方針となりました。それを受け、当院においても「がん」と共に「循環器疾患」にもセンター構想を入れて対処しようという方針となり、循環器センターが立ち上がりました(図1)。

とは言いましても、大阪ろうさい病院のどこかに新しく循環器センターという施設ができたわけではありません。今後は、広報を中心にこれまで「ハートチーム」として協力していた循環器内科と心臓血管外科・血管外科に新しく「ブレインチーム」が入り、脳卒中・脳神経内科及び脳神経外科も加わった協力体制のもと、最良の医療を提供していくことになりました。

現在、HCU(high care unit)16床の中にCCU(cardiac care unit)とSCU(stroke care unit)もあり、常にコンタクトをもてる体制が整っています。また、コロナ前まで行っていたハートフォーラムは、今後「ブレインチーム」も入った「循環器フォーラム」として新たに立ち上げ、心臓と脳の疾患の啓蒙活動に努めていきたいと考えておりますので、ぜひとも、大阪ろうさい病院「循環器センター」をよろしく願いたします。

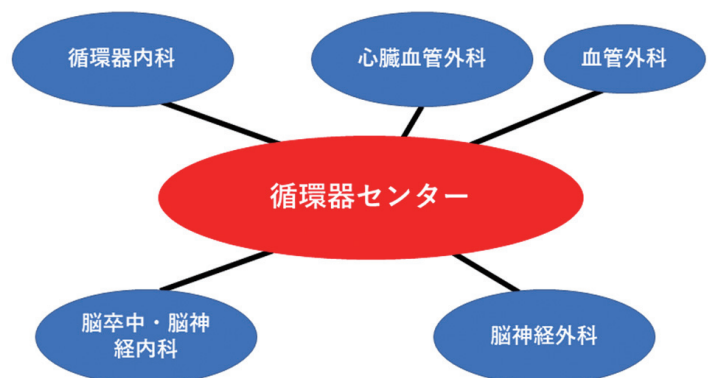


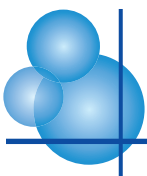
図1

基本理念

誠実で質の高い医療を行い、
すべての方々から選ばれる病院に

基本方針

1. 地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2. 高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3. 患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4. 勤労者医療を担ってこれを推進します
5. 働きがいのある職場づくりを推進します



診療科紹介 血管外科

血管外科部長 中村 隆



血管外科では腹部および四肢の動脈疾患・静脈疾患および透析用バスキュラーアクセス(内シャント)に対する診療を行っています。

2010年4月に開設以来、南大阪地区で数少ない血管専門診療科として数多くの血管疾患の診断・治療に携わってきました。ご紹介頂いている先生方にご場をお借りして御礼申し上げます。

近年、未曾有の高齢化社会に突入し、糖尿病・慢性腎臓病といった生活習慣病の増加と相まって、動脈硬化による血管疾患が増加しています。その代表的血管疾患として、閉塞性動脈硬化症と腹部大動脈瘤が挙げられます。

閉塞性動脈硬化症に対しては、無侵襲診断等で病態の重症度、病型を正確に診断したのち、内科的治療(薬物治療、フットケア)、血管内治療、外科的治療など様々な治療選択肢の中から個々の患者さまにとって最適かつ安全な治療法の提供を心掛けています。近年、血管内治療の技術やデバイスの進歩はめざましいものがありますが、糖尿病あるいは維持透析中の患者さまにおいては下肢動脈の高度石灰化のため、血管内治療が困難な場合があります。そのような症例に対して当科ではCUSA(超音波外科吸引装置)を用いた血管形成術を行っており、良好な結果を得ております^[1,2]。また、下腿動脈病変を中心とする複雑病変に対する静脈グラフトを用いたバイパス術の経験も豊富です^[3]。このように血管内治療困難例、下肢切断を宣告された重症例に対しても積極的に血行再建術を行い、切断回避、患者さまのQOL(生活の質)向上に努めています。

腹部大動脈瘤に対しては、開腹下人工血管置換術に加えて、高齢者や合併症を有する患者さまに対してはステントグラフト内挿術も積極的に行っております。本術式は鼠径部に小切開を加えるのみで、開腹を必要とせず、手術後の回復が早いといった利点があります。一方で、すべての腹部大動脈瘤がステントグラフト内挿術で治療できるわけではありません。さらに、最近ではステントグラフト治療の長期成績も報告されています。適応を慎重に検討し、患者さまと十分に相談した上で、最適な治療法を提供させていただきます。

当院には透析導入となる患者さまが多く入院されますが、透析患者さまの命綱となる内シャント作製を当科で行っております。術前に超音波検査による評価を行い、可能な限り自己血管による内シャント作製を心掛けています。通常の内シャント作製が困難な場合でも、動脈表在化を加えることでほぼ全例で自己血管による透析が可能になっています^[4]。手術後も外来受診して頂くことで、シャント関連合併症及び末梢動脈疾患の予防ならびに早期発見を目指しています。受診に際し、超音波検査をはじめとする診療情報をご提供頂いている先生方に厚く御礼申し上げます。尚、スチール症候群や静脈高血圧症といった治療の難しいバスキュラーアクセス関連合併症の治療経験も豊富です。他院でシャント手術を受けられた場合でも対応させていただいておりますので、お気軽にご相談ください。

今後も、心臓血管外科・循環器内科をはじめとし、他診療科と協力しながら、個々の患者さまにとって最善の治療を提供できるよう努めてまいります。ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、受診に際しましてはメディカルサポートセンターでの予約をよろしくお願いいたします。

参考文献(当科発表)

1. Maeda S, Nakamura T. Decalcification of a Heavily Calcified Common Femoral Artery and its Bifurcation with a Cavitron Ultrasonic Surgical Aspirator EJVES Short Rep. 2016;5;34:5-8.
2. Miyake K, Nakamura T, Fujimura H, Shibuya T, Sawa Y. Efficacy of the Decalcification of Heavily Calcified Femoral Bifurcation Lesions Using a Cavitron Ultrasonic Surgical Aspirator. Ann Vasc Surg. 2020;69:274-284.
3. Miyake K, Nakamura T, Fujimura H, Shibuya T, Sawa Y. Role of Bypass with Preoperatively Diagnosed Small Caliber Veins in Chronic Limb-Threatening Ischemia. Ann Vasc Surg. 2021;74:344-355.
4. Nakamura T, Suemitsu K, Nakamura J. Superficialization of brachial artery as effective alternative vascular access J Vasc Surg. 2014;59:1385-1392.



診療科紹介 形成外科

形成外科部長 中川 達 裕



形成外科は、「体表面の欠損、変形」を主な対象とし、それらを正常に戻すことを目的とした診療科です。当院に開設後、今年で15年目を迎えました。現在5名の常勤医で診療をおこなっております。

体表面の欠損・変形を生じる原因には、外傷・腫瘍・先天異常がありますが、「加齢」もその原因のひとつです。加齢による変化を対象とした場合、通常は美容診療となるので保険診療では対応できないのですが、機能低下を伴う場合は保険診療が可能で、結果としてアンチエイジング的な治療となる場合があります。

加齢による顔貌の変化を伴う眼瞼下垂や眼瞼内反の手術は保険適応です。眉毛下の皮膚切除による下垂修正術は、目元のたるみを改善する要素もあります。足の血管の浮き上がりが目立つ下肢静脈瘤は、静脈弁の機能不全が本態であり、低侵襲なカテーテルによるラジオ波焼灼術に加え、最近ではより簡便な医療用グルー(糊)による日帰り塞栓術などで治療が可能です。顔のシミ取りなどは美容診療なので対応できませんが、加齢に伴う皮膚の腫瘍性病変、例えば悪性を疑う盛り上がったシミに対しては、皮膚生検にて悪性を否定したのちに、見た目を配慮した切除術をおこないます。皮膚の良性腫瘍も、一部の例外(美容目的のホクロとり、シミ取りなど)を除けば保険適応で切除できます。

上記の診療以外にも、糖尿病性足病変・慢性創傷に対する手術治療、乳がん切除後の乳房再建術、頭頸部がん切除後の遊離組織移植など、基幹病院として求められる再建外科手術もおこなっております。今後も形成外科領域での進歩を貪欲に取り入れて、地域の皆様に良質な医療を提供していきたいと考えています。今後ともよろしくご厚意申し上げます。

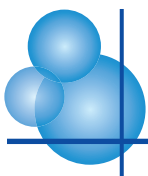


下肢静脈瘤に対するラジオ波カテーテル治療



表在性腫瘍に対する炭酸ガスレーザー治療





診療科紹介 呼吸器外科

顧問・呼吸器外科部長 太田 三 徳



2020年4月より当院の呼吸器外科を開設いたしました。

それまでは呼吸器疾患の診療は、呼吸器内科(近畿中央呼吸器センター非常勤医)と呼吸器外科(大阪大学呼吸器外科非常勤医)が各々週一回半日の外来診療であったため継続的な治療や迅速な対応が困難でした。

大阪大学呼吸器外科の応援を得て2020年4月より呼吸器外科を立ち上げることとして、当初スタッフは私と外科専攻医1名であり、1～2例/週の手術時は大学から応援医師が派遣されることになりました。

呼吸器外科診療のために、精密肺機能検査機器などの購入、気管支鏡と消耗品の整備、手術機械セットの組み上げ、パスの作成、病棟スタッフへの講義、周術期リハビリの確認、等々各部署部門のご協力により半年ほどかかって体制が整いました。

この3年間に手術を行った疾患(生検含む)は

肺がん：50例、転移性肺腫瘍：42例、良性腫瘍：14例、気胸：6例、胸部外傷(肋骨骨折・血胸など)：4例、胸腺腫：5例、悪性胸膜中皮腫：1例、その他(血胸・炎症)：13例、計135例で、ほぼすべて胸腔鏡手術が行われています。その他、院内発生の胸水症例、膿胸症例のドレナージ、および救急部に搬送された胸部打撲例への処置などです。

隣接する国立病院機構近畿中央呼吸器センターの内科からは、特に肺がんと抗酸菌症の治療についてご支援を頂いております。

当科のスタッフは2021年度と2022年度に呼吸器外科専攻医各1名でしたが、今年度からは石田大輔先生(2009年卒)が着任しました。

できたての診療科ですが症例数は増加傾向であり、2022年度の経営評価では、わずかですが黒字になりました。

これまでは、ほぼ院内発生症例を扱ってきましたが、今後は呼吸器・縦隔疾患の治療相談やセカンドオピニオンを通して地域医療へ貢献しようと考えておりますので、皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



診療科紹介 歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 吉岡秀郎



平素より貴重な症例をご紹介いただき、ありがとうございます。おかげさまで年間初診料算定患者数も増加しており、令和5年度は初の年間4,000人に達する見通しです。厚く御礼を申し上げます。

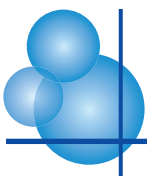
令和4年1月1日の新病院移転から1年半が経ちました。新病院では外来診療ブースも明るく、広く、大変使いやすい設計になりましたので、これまで以上に迅速な対応ができるようになったと思っています。スタッフは部長：吉岡秀郎(昭和62年大阪大学歯学部卒)、医長：安田卓司(平成24年大阪大学歯学部卒)、医員：安部友大(平成28年大阪大学歯学部卒)、初期臨床研修医(単独型1年)：石田杏奈(令和4年新潟大学歯学部卒)、西村祐真(令和5年大阪大学歯学部卒)、以上5名です。

当科は一般歯科治療を除く、すべての口腔外科関連疾患に対応できる体制を整え、昭和37年、本院開設時から設置されていた診療科として、地域の先生方との病診連携を密に行ってまいりました。主に①学会認定施設として難易度の高い口腔外科手術を安全に行う、②口腔粘膜疾患の診断と治療、③周術期口腔機能管理、④薬剤性顎骨壊死の予防と対策が主な診察対象となっています。顎骨壊死発症数はビスホスホネート製剤などの薬剤を服用している女性を中心に、ここ数年増加傾向であることが大変気になっています。

当科のクリニカルデータ概算値としては外来手術件数が1,800件、中央手術場手術件数は550件、年間入院患者数は280名となっています。さらに診療効率を向上させ、安全・安心な医療を継続していきたいと思っています。

堺・南大阪医療圏においても超高齢化社会を避けては通れないと感じており、口腔領域の地域包括ケアシステムの中心的役割が果たせるように、訪問診療医療機関との連携強化を模索しています。今後ともよろしくお願ひします。





診療科紹介 皮膚科

皮膚科部長 白井 洋彦



当院皮膚科では、皮膚疾患のあらゆる診療を行っております。

皮膚の病気といえば、皮膚だけ治療を行えばよいと思われがちですが、様々な病気の一症状として出てくる場合があります。例えば、薬の副作用で全身に皮疹が出ている場合などは、原因となっている薬をやめない限りは、いくら軟膏を塗っても皮疹はよくなりません。

そのように、総合的に診断して治療をしていく必要があります。そのため、当院では採血を含むアレルギー検査、画像検査、場合によっては皮膚の一部を採取して病理組織検査をするなど様々な検査を行って総合的に診断を行っております。

病理検査等で皮膚の癌と診断された場合は、当院形成外科と連携をとって治療を行ったり大学病院等への紹介も行っています。

また、4月から当院でもナローバンドUVBによる紫外線治療器を導入し、尋常性乾癬、尋常性白斑、掌蹠膿疱症、円形脱毛症、結節性痒疹などの疾患に対する治療も積極的に行っております。さらに、皮膚科では皮膚の診療だけではなく、爪の治療も行っております。爪白癬や巻き爪の治療も積極的に行っております。巻き爪の治療は、当院では弾性ワイヤーを用いた治療を行っており、気軽にご相談していただければと思います。

今後とも地域の皆様に信頼される医療を提供してまいりますので、引き続き、ご指導ご鞭撻よろしくお願いたします。



診療科紹介 薬 剤 部

薬剤部長 みつ だ まさ き
満 田 正 樹



薬剤部は、患者さまに安全かつ効果的な薬物治療を提供するために活動しています。

現在、薬剤師41名、薬剤助手6名、事務員2名の専門スタッフが、医療チームの一員として、患者さまの薬剤治療に関する情報提供、薬剤管理、調剤、副作用の確認・対応などの業務を行っています。

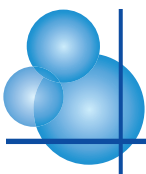
薬剤師は、患者さま一人ひとりの病状や薬剤治療について細かく情報収集し、医師や他の医療スタッフと協力して最適な薬物治療を検討しています。また、患者さまに薬剤治療について分かりやすく説明し、正しい薬の使い方や副作用の予防方法なども指導しています。

さらに、医療安全の向上を図るため、医療事故の防止や薬剤の調剤ミスの予防などにも取り組んでいます。高度な調剤機器(バーコード認証付き全自動錠剤分包機、散薬調剤ロボット、注射薬自動払出システム等)を導入し、安心・安全な医療の提供に努めています。

抗がん剤は、身長・体重・臨床検査値など患者さまの情報や薬歴、投与量、投与スケジュール等を投与直前まで確認し、調製支援システムも利用することで安全性を高めています。また、調製者は防護衣を着用し、安全キャビネットという専用設備内で閉鎖式器具を用い、患者さまのみでなく、医療スタッフも抗がん剤による曝露を防止できるよう努めています。

今後も患者さまのニーズに対応できる薬剤部を目指し、何事にも誠意をもって対応していきたいと思っています。お薬について疑問や不安に思うことがありましたら、どんなことでもお気軽にご相談ください。





診療科紹介 中央検査部

中央検査部長 **かわぶちやすし** 川 淵 靖 司



旧病院では各検査室が散在しており、それぞれの検査室で受付が必要でしたが新病院に移転して1か所に統合しました。そのため全ての検査(臨床検査のみ)を1回の受付で完了できるようになりました。また、自動受付機を3台導入したことにより受付時の混雑が解消できました(下段左写真参照)。さらに、採血室と検体検査室が統合されたことにより、検体搬送時間が省略されて報告時間も早くなりました。心電図検査室および超音波検査室の増設により、生理検査の待ち時間及び報告時間も短縮されました。

患者さまの待ち時間が短縮されただけでなく、日本臨床衛生検査技師会及び日本臨床標準協議会より「品質保証施設認定書」を授与しております(下段右写真参照)。これは「臨床検査を適切な環境で実施しており、精度の高い検査結果を提供している」という証です。また、外部精度管理においても毎年、高得点を得ています。さらなる品質向上のために国際規格である「ISO15189」の取得に向けて準備を進めております。

新型コロナウイルス感染症が感染症法で5類となりましたが、当院では2類の時と同レベルでPCR検査を継続してまいります(国立感染症研究所と同程度の精度と感度)。

スタッフの認定技師在籍状況に関しては、細胞検査士や超音波検査士をはじめとして述べ94ライセンス取得しております。各検査室に認定資格を有するスキルの高いスタッフを配置しており、学会発表や論文投稿も行っております。

地域支援活動の一つとして、開業医さまからの超音波検査や神経伝達速度検査等を実施しております。当部の精度をおわかりいただけたと思いますので、さらなるご依頼をお待ちしております。

患者待ち時間の短縮や高精度な結果報告を行っているという自負があります。しかし、患者さま、開業医さまや病院職員は本当に満足されているのでしょうか？自己満足だけでは意味がありません。患者さま・開業医さま・職員より忌憚のないご意見を多数頂戴できれば幸いです。中央検査部のスタッフ全員で皆様のご意見を真摯に受け止め、より良い中央検査部を構築したいと考えております。何卒ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。



自動受付機



品質保証施設認定書

独立行政法人
労働者健康安全機構 **大阪ろうさい病院**
日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療連携拠点病院
地域医療支援病院

〒591-8025
大阪府堺市北区長曾根町1179-3
TEL 072-252-3561(代表)
072-255-8076(メディカルサポートセンター)
FAX 072-255-8203(メディカルサポートセンター)
<http://www.osakah.johas.go.jp/>